

発行 一般社団法人 相模原市医師会

子どもの睡眠障害 ～からだとこころへの大きな影響～



「寝る子は育つ」につながる「体内時計」とは

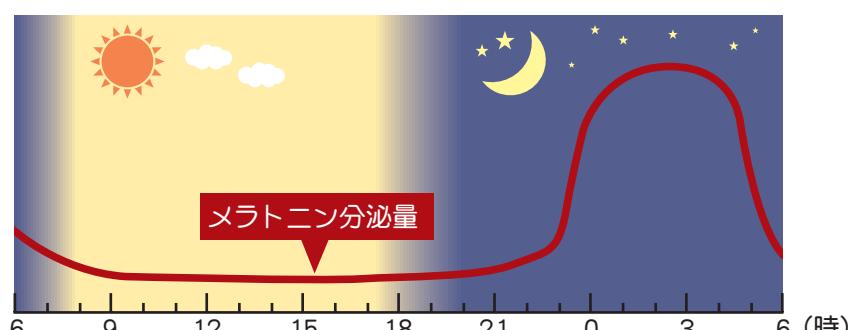
人は夜になると眠くなり、朝になれば目を覚ます生活を繰り返し、このリズムを正確に一日周期で刻む時計をからだの中に持っています。それを「体内時計」といいます。意識をしなくても昼は心とからだが活動し、夜は休息します。その繰り返しで呼吸・血圧・体温などのバイタルサインの変化やホルモン分泌を促し、からだを維持するための機能として働くことになります。

睡眠には二つのサイクルがあります。脳は少し目覚めているが、からだはある程度ぐったりしている、この時間帯をレム睡眠といいます。ここは夢をみている時間です。そして、この時間帯に頭の中の情報処理と記憶の固定を行います。もう一つはからだはぐったりし、同時に脳は休憩している状態であるノンレム睡眠といわれる時間帯です。ここは一日のからだのすべての疲れを取る時間帯と考えられています。人はこの二つの時間帯を繰り返します（表）。その周期は生まれたばかりの赤ちゃんは約40分～50分、大人は約90分と考えられています。正確に刻まれる「体内時計」による、この繰り返しの時間の中で、睡眠時に多く分泌するメラトニンという脳内ホルモンによってからだの健康や睡眠が維持されることになります（図1）。

表 睡眠の種類

	レム睡眠	ノンレム睡眠
脳の動き	活動	休憩
筋肉の緊張	保たれる	低下する
肺と心臓の動き	不規則に変化	活動量は減る

図1 夜間に多く分泌されるメラトニン



メラトニンの分泌は主に光によって調節されています。夜中に強い照明の中にいると体内時計の働きが乱れてメラトニンの分泌が少なくなります。夜更かしは体内時計を乱し、これが眠れない原因になります。

眠っているときに脳がしていること

睡眠は、一日活動した結果の疲労などからからだの回復を行い、脳ではパソコンの再起動に似て、修理や点検・確認を行うことになります。すな



川野 信之

爽やかな季節を迎えつつあります。季節の中で初夏の5月が一番好きという方も多いのではないでしょうか。

さて今月の最初のテーマは子どもの睡眠障害です。子どものいる方だけではなく、健康で過ごしたい大人にも参考になります。

2つ目のテーマは食塩のとり方です。高血圧は最も多い生活習慣病ですが、ここでは高血圧になりにくい塩分を控えるための食事の工夫が具体的に記載されています。ぜひ今後の献立にお役立てください。

わち、一日の中で経験した膨大な情報を分類して、大切な記憶を記録する作業を行います。そのため、脳は睡眠中の方が目覚めている時間帯より活動している場合があります。すなわち、睡眠不足は正常な脳の働きを著しく低下させ、脳の発達に重大な支障をきたすことになります。そのことが、落ち着かない、イライラするなどのほか、我慢ができなくなり、いわゆる「キレる」ことが多くなって、それが学習の低下にも影響することになります。

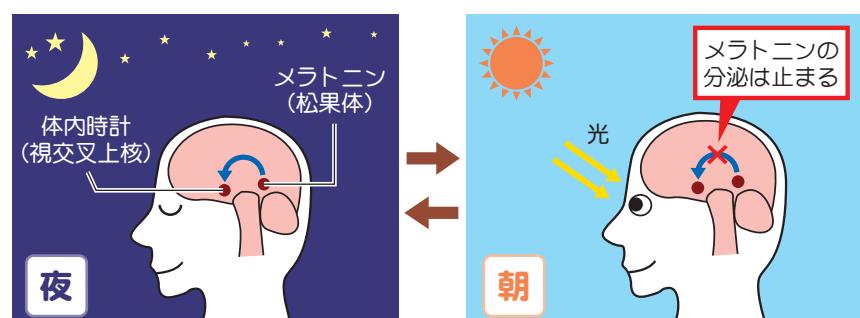
できることからやること



厚生労働省では、子どもに十分で良好な睡眠をとってもらうために「早寝・早起き」から「早起き・早寝」を提案しています。まずはがんばって早起きをして、太陽の光のシャワーをいっぱい浴びましょう。そこからからだの中の時計が動き始め、からだや脳が徐々に朝型体質に変わり、夜になれば自然に眠気がわいてくることになります。

体内時計、睡眠リズムを調節している視交叉上核という脳の場所があります（図2）。そこは太陽が当たることで睡眠リズムの調整を始めます。人間にとっては外に出て、光に当たることはとても大切なことです。

図2 視交叉上核の働き



メラトニンは脳の松果体と呼ばれる部分から分泌されるホルモンです。視交叉上核にある体内時計に働きかけることで、目覚めと睡眠を切り替えて、自然な眠りを誘う作用があり、「睡眠ホルモン」とも呼ばれます。

朝ごはんの大切さを知ること



朝ごはんも体内時計の調節に大いに役立っています。朝ごはんを食べることで胃腸を介しての体内時計が始動し、しっかりと目が覚めるといわれます。このことは、生活習慣が乱れて夜型化している子どもに対しての最高の処方になります。

睡眠時間の減少は、成長の遅れ・注意や集中の低下・眠気・疲れやすさなどをもたらします。適切な生活習慣と健康についての大切さを、子どもの最大、最強のサポートーであるお父さん、お母さんにはわかってもらいたいと思います。

(相模原市医師会 鎌木 宏)

参考文献
厚生労働省生活習慣病予防のための健康情報サイト
日本小児科学会雑誌総説
武田製薬工業ホームページ



